

旅行記

海南航空で行く北京旅行記

村田嘉明（会員）

1日目（6月24日）

羽田国際空港に午後11時過ぎに着き、出国検査をへて搭乗する。搭乗した海南航空は欧米

路線を持つ中国の優良航空会社で、深夜便でも上等の機内食、ドリンクサービスで定評があるという。搭乗開始は直前の1時50分。ところが1時間も待たされ、午前3時過ぎにようやく出発。北京空港に5時45分に着く。税関検査、入国検査後、7時近くに空港出口に出る。四川人の張晗さんとその叔父さんの出迎えを受け、叔父さんの家用車で北京南方30km「宋家庄」のホテルへ。ホテルのチェックイン時間は通常午後3時だそうだがホテル側の配

慮で9時過ぎにチェックイン。ホテルの食堂で朝食後、近くの便利店で冷えた青島麦酒とハル濱麦酒を購入し飲んだ後、飛行機で全く「眠れなかった」ため「爆睡」する。

2日目（6月25日）

間半の道程である。朝7時半に出発し房山線「広陽城」駅に9時近くに到着。出迎いの張さんの案内で9時発「中国社会科学院」の専用バスで大学院に着く。

2日目は、前日地鉄駅近くの高級「手作りパンの店・好利来」という全国展開のチェーン店で買ったパンで朝食。価格も日本なみに高い。味も日本以上にうまい。本日は訪中の第一目的である張秀閣さん（日本に留学した大学院生）に会うために、北京の南の郊外、地鉄房山線「大学城」に向け出発する。10号線（外環状線）から9号線へ乗継いで、約1時

この大学院大学（中国社会科学院研究生院）は今年9月から学部生（4年制）が入学することにより、「中国社会科学院大学」に生まれ変わる。これまでは中国の文系シンクタンク「中国社会科学院」を母体とするレベルの高い少人数の大学院大学であった。本年6月初旬に行われた「全国統一入試」で理系のシンクタンク「中国科学

院」は既に学部を開設し運営している。中国社会科学院大学も募集をはじめ、「全国統一入試」合格者は今年9月か

ら学部1年生が入学してくる。統一入試の合格点数は高レベルの水準と予想される。

昼過ぎ6号線で「平安里」3星ホテル「護国寺賓館」へ。西城区の中心地で梅蘭芳故居や郭沫若故居や胡同に近い。



6号線車内。スマホに熱中



9月開校間近の学部棟



2017年9月から「中国社会科学院大学」

ホテルを9時前に出て、地鉄「宋家庄」から5号線で7つ目「灯市口」で下車し中国婦女旅行社日本部を訪問。担当の趙芳さんと7月末の「善隣中国旅行」の打ち合わせ。同旅行社事務所で両替した人民幣で、北京での宿泊費、車両代を支払い「領収書」を受け取る。11時半に私とカウンセラーパートの張晗さん（四川人）と趙芳さんで王府井の途中の胡同の「四号院」にある隠れ家的料理店

その後、地鉄6号線「平安里」から「朝陽門」で乗り換え2号線（内環状線）「東四十条」で下車し、7月の善隣中国旅行の夕食会場「四季民福」烤鴨店へ。一帯は中国の行政機関（外交部・文化部）もあり落着いた街並み。「四季民福」烤鴨店で料理と麦酒（バドワイザー）を注文し、カウンセラーパート張さんと歓談する。

3日目（6月26日）



張秀閣さん、村田、張晗さん（四川人）

「圓鑫餃子館」へ。包みの大きい「大箔餃子」や「回鍋肉」などの味を堪能した。冷えた「燕京啤酒」で、喉を潤す。その後、徒歩で王府井の王府井書店に行き、北京地鉄の路線図を購入した。書店近くの地鉄1号線「王府井駅」から「東单」乗換え5号線の終点駅「宋家庄」に着く。駅近くの超市（スーパー）で明日の朝食のパンと牛乳と哈爾濱啤酒を買い、ホテルに戻る。この日の北京は30度を超える

暑さですぐシャワーを浴びる。休息する。

4日目（6月27日）

訪中以来、天気は快晴が続き暑い。ホテルを8時過ぎに出発し地鉄・奕庄線「宋家庄」駅から8つ目「榮昌子東街」で下車し、駅前で北京麋鹿生態実験中心の張さん（26歳）の車で「四不像センター」へ向かう。9時過ぎ、広大な敷地の「南海子



北京の胡同（護国寺賓館前）

郊野公園」に入り「四不像センター」へ着く（「四不像」の写真は裏表紙下段に。また「四不像」の説明は「みんなの写真館」に）。1年前、訪日し善隣交流会に参加した研究員の張樹苗さんと陳星さんと再会を果たす。会議室で白加徳氏（センター主任、高級政工師）と1年前訪中時の友2人と歓談後、電動カートで四不像園内を回遊し写真を撮った。一般中国人の立入禁止区域も案内してもらった。その後、北京南海子麋鹿苑博物館で1985年開館以来の歴史、ドイツ人の四不像研究・収集家の寄贈展示物等を見学する。展示物のディスプレイは日本以上の展示内容であった。博物館を見学後、職員食堂で中国料理とスイカやヨーグルトのデザートをお馳走になる。食堂では日本語の話せる女性職員（北京・国際関係学院大出身・中国共産党中央党校に近いキャンパス）と日本語で交流する。



地下鉄駅前の護国寺寶館

夕刻になり地鉄の八通線「传媒大学」駅から1号線「王府井」で下車し、駅前の北京飯店前で中国銀行で日本円を人民元に両替する。当日換算レートは幸運に「円高」で1人民元＝17円近い「高レート」であった。

その後、中国銀行店舗前の大型商業ビル7階の「孔乙己」に移動する。2年前、北京旅行（2015年6月）で中国社会科学院日本研究所を訪問し知り会った研究員・周曉娜さん

と孔乙己（魯迅の小説に登場）店内で再会する。料理は浙江料理で味はずこぶる美味しい。鰻・東坡肉、鍋料理、空豆など満足した。周曉娜さんは1年前、中国社会科学院日本研究所から北京市発展・改革委員会に転職し、委員会の経済研究部で論文作成など研究活動に注力している。同委員会・経済社会発展研究所の男性研究員、霍景東さんも同席し霍景東さんが現在フィールドワーク研究の「砂漠地域の米作の土壌改良」について議論した。内モンゴル自治区通遼市の沙漠地の米作現場写真を見せてもらう。

夕食会を終え、周曉娜さんと霍景東さんと北京での再会を約束し別れる。

地鉄「王府井」1号線から「東単」乗り換えて5号線「宋家庄」下車、ホテルに向かう。途中、便利店で「雪花麦酒」500mlを購入。この日も暑く、ホテルに戻るやすぐシャワーを



地下鉄・東四十条駅

浴び、「雪花麦酒」を一気に飲み干す。

この日、午前中、北京麋鹿生態実験中心・北京生物多样性保護研究中心の「2研究員」と再会を果たせた意義は大きい。北京の南方（北京市大興区南海子麋鹿苑）の実験センターを訪問できたことは幸運であった。

5日目（6月28日）

旅行荷物をまとめスーツ



北京烤鸭店

ケースに格納する。
午後3時半過ぎ、カウンターパートの張さんの叔父さんの自家用車で北京首都空港第二ターミナルに移動する。北京市内は夕方、渋滞が激しいため早めの出発となった。5時間前に北京首都・空港第二ターミナルに着き張さん、叔父さん夫婦と別れ海南航空受付に移動する。

今回の北京旅行は宿泊ホテル（大興区宋家庄）と飛行場との往復を北京人の叔父さん

のクルマで送迎してもらい感謝する。

往復利用した海南航空（本社・海南省）は中国の新興成長航空会社で、深夜便でも豪華な機内食・機内サービスがあり帰国便では冷えた「燕京啤酒」を飲み、眠りにつく。機種はボーイング737で左右3席の中型機であった。

今回の北京市内移動はタクシーを1回も使わず、すべて「北京交通カード」で北京地鉄を利用し移動した。世界でも地下鉄延伸距離では北京・上海が世界一である。発展著しい中国の成長を体験できた。また、市民レベルで「草の根・国際交流」できた意義は大きい。

私は日中戦争終戦前に中国東北部で生まれ（長春市）第二の故郷は中国である。

訪中前まで北京は豪雨が続いたそうだが、6月24日から5日間は好天が続き快適な旅行だった。



四季民福店内

1年中で6月が一番「北京の空気」がよく、マスク着用の市民は1人も見かけなかった。北京の「空」は青かった。今後も中国の友人との国際交流を続けたい。

今回の旅は北京の友人との再会、カウンターパートの四川人の張さんと4年振りの再会し、張さんの日本語通訳で効率的に訪中日程を消化できた。張さんありがとう。張さんは同じホテルにもう1泊し、翌日、

四川に帰郷した。9月からは大学院生として北京生活が始まる。

〈解説〉

24ページ、張秀閣さん（中国社会科学研究院研究生）は2015年6月会員交流行事「善隣東京湾クルージング」参加者..2015年8月、国費留学を終え中国に帰国した。

故・大江哲氏の厦門大学短期留学時代からの友人。

私は協会国際交流委員会の委員として「中国との国際交流」を通じ、日中友好の懸け橋として注力したい。

本年2017年9月は日中国交正常化45周年の記念すべき年にあたる。今回の個人旅行は中国の友人との「再会交流」が主だが、7月下旬に実施された善隣..日中国交正常化45周年北京市・甘肅省訪問の旅（参加者13名）の北京訪問先の「下見」と「見学」を兼ねた。